第４回　これからの市立高等学校のあり方に関する有識者会議　議事要旨

１　**日時**　　令和６年 10 月 29 日（火）　13 時～14 時 50 分

２　**場所**　　神戸市総合教育センター　706 号室

３　**出席者**　浅野良一会長、井上和彦委員、岡田恵実委員、鴨井幸造委員、佐合純委員、佐藤春実委員、舩木伸江委員、ラッシラ エルッキ タピオ委員（野村和宏委員はオンライン参加）

４　**議題**　　市立高校の未来像（重視すべき教育）

５　**主なご意見**

（１）教育プログラム

①キャリア教育

・生徒が、起業家の方と一緒に自分のキャリアを考える機会があれば目標設定につながるのではないか。

・現在のキャリア教育や探究活動では、プロジェクトの体をなすことやうまく運営することに重きを置きがちだが、そもそも自分自身の大事にしたいことや価値観とどうつながるのか考えたうえで、取り組んでいくべきではないか。

・須磨翔風高校の「フューチャープラン」では３年間かけてディスカッション等を通じてしっかり考えさせている。高校時代に自分の将来について一定の方向性を見出せるような取組が大事だと思う。

②文理融合型探究、ＤＸ

・島根県海士町では高校が民間と連携して島の課題解決に取り組んでいる。わかりやすい社会課題に対して生徒はモチベーションを持ちやすいので、他の地域と交流することも面白いのではないか。

・少子化が進む社会において、少ない労働力を創造的な仕事に回すためには、ＤＸによる自動化や無人化が必要である。その創造もＳＤＧｓに貢献できるように、早い段階で自然環境に触れる体験と、どんな領域であってもＤＸを大切にした教育が必要になるのではないか。

・文理融合の「理」はＩＴや農漁業、「文」はＳＤＧｓやアート、スポーツ、異文化体験、サービスなど様々な要素が考えられる。特に農業プラスＤＸは良いプログラムになるのではないか。

・文系・理系を問わず幅広い知識や分析力を必要とするので、データサイエンスの分野にぜひ力を入れてほしい。指導できる人材の確保が難しいが、母校愛のある卒業生の協力を得ながら進めてもらいたい。

・探究活動で地域や企業と連携する際に、教員はしっかり準備して成功体験をさせてあげたいと考えがちだが、実際の社会を考えると失敗することも生徒にとっては良い経験になる。

・探究学習を進める際には、学習者によってとらえ方が異なることについて気をつけないといけない。最終的に自分が社会とどう関わり、何を残したいかなど、哲学的な会話や思考を行う機会が必要だと思う。

・大学でも文理融合的な知識を持った生徒が求められており、専門分野以外の知識がある程度あってこそ、様々な課題解決に取り組める人材となれるのではないか。さらに社会にどう貢献できるかということが大切になる。

・ＳＴＥＡＭ教育は「ＳＴＥＭ＋Ａ」ではなく、「Ａ」（音楽、文学、アート）からはじめて、出てくる課題にサイエンス的手法でアプローチすると特徴的なプログラムになるのではないか。

・学校推薦で大学進学する生徒が多くなっているので、進路が決まった後の期間を有効活用して、大学

での勉強が楽しくなるような文理融合的なプログラムを考えてみてはどうか。

③その他

・若い世代が社会課題を自分事として考えるには、主権者としての意識を持たないと難しい。教育プログラムに主権者教育を組み込むことも必要ではないか。

・地学のように文理横断や探究的な学習に適した科目でありながら、専門の教員採用が乏しいような事例もある。理系人材の育成を進めるのであれば、既存の科目をしっかり見直した上で立案すべきではないか。

（２）制度・仕組み

・探究活動やキャリア教育の時間を十分確保するために、中高一貫教育であれば時間を捻出できるのではないか。

・特別な配慮が必要な生徒が進学する際に、中学校と高校が連携して教員が情報共有する仕組みがあれば、入学後に学校に慣れずに退学してしまうようなことを防げる。大阪府では連携時間を確保するために、入試時期の前倒しを検討している。

・オンラインを活用して５校のネットワークを強化し、特色ある授業の単位互換制度ができないか。

・他の政令市の中高一貫教育校は、不登校支援や進学などに特化した学校が多い。神戸市立高校は、多様な領域を５校がうまくカバーしており、あえて中高一貫教育校を設置せずとも、市立大学との高大連携の方がよいのではないか。

・神戸市では、義務教育学校や高専、大学などすでに多様な校種を設置している。中高一貫教育校は義務教育学校とのすみ分けが難しいのではないか。

・高校に入って授業の進度が急に上がって苦しむケースもあるので、中高一貫教育校は１つの選択肢になる。公立の中高一貫教育校は、経済的な面でバランスをとる意味でも大切ではないか。

・学校ごとの３つのポリシー※を、「育てたい人材像」の「自分自身や社会全体の幸せを大切にする」に結びつけて、「本校で学ぶと将来このように社会に貢献できる」などと打ち出していけばよいのではないか。

※①アドミッションポリシー（どんな生徒に入学してほしいか）、②カリキュラムポリシー（何がカリキュラムのポイントか）、③グラデーションポリシー（どんな生徒を育て、卒業させるのか）を高校ごとに設定している。

（３）人・モノ

・文理融合型の探究を進めていくためには、教員の採用もしっかり考えていかないといけない。

・学校の中で、社会人を含むたくさんの人と生徒が自由に話す機会を多く設けることで、生徒の考え方に広がりが出るのではないか。

・教えることが学びにもつながるので、先輩が後輩に教えるというように、並走しながら気軽に相談できるような仕組みがあればいいと思う。

・教員の人材獲得のため、「神戸市立の高校は教員が楽しく働ける環境がある」ということが特色になるとよい。

・読書をすることで社会への問題意識を高めることにもつながるので、探究のプロジェクトを立てるきっかけになるという意味で、図書館の充実は非常に重要である。